平成 28 年度の県内発掘調査をふりかえって

平成 28 年度の福井県内の発掘調査件数は、県の事業 9 件、市町の事業 10 件の計 19 件です。県事業は北陸新幹線建設事業関連が大部分を占め、市町事業は史跡整備・史跡指定のための範囲確認・内容確認調査が多くを占めています。発掘調査件数は減少傾向にありますが、新幹線建設事業関連の調査が本格化したことにより、発掘調査面積は増加に転じました。また、新幹線建設予定地内の遺構の残り具合を確認するための一次調査を各地で行いました。あたかも、旧越前国を縦断する長大なトレンチを設けたような形で、これまで開発の手が及ばす、調査のメスが入ることの無かった地域でも、その状況が明らかになりつつあります。

さて、平成 28 年度の調査例をふりかえると、縄文時代では、糞置遺跡（福井市）・犬山遺跡（大野市）において、縄文時代晩期の土器を含む河川が見つかりました。

弥生・古墳時代では、南稲越遺跡（あわら市）において、弥生後期～古墳時代前期の建物跡・土坑（墓を含む）が見つかり、赤色顔料を砕くのに使った石杵が出土しました。糞置遺跡でも、この時期の建物跡・方形周溝墓・河川が見つかり、河川には護岸施設があったほか、大量の木製品が良好な状態で出土しました。

奈良・平安時代では、同じく糞置遺跡で溝が見つかり、周囲からは文字の書かれた土器やまじない関係の遺物が出土しました。

中世では、長崎遺跡（坂井市）で、土塁や堀・柵・建物跡・井戸等が数多く見つかりました。ここは、越前の時宗布教の拠点寺院で、中世には「長崎城」とも呼ばれ城館としても機能していた称念寺の隣接地で、当時の称念寺の姿を復元する貴重な成果となりました。また、寄安遺跡（坂井市）でも、この時期の屋敷地が見つかりました。

近世では、福井城跡（福井市）の調査が県・市ともに行われました。県による新幹線関連の調査では、福井藩初代藩主結城秀康の養父結城晴朝の屋敷地で、規模の大きな建物跡が見つかったほか、秀康の妻の弟の屋敷地では、近世初めの庭園の一部が見つかりました。また、福井市による調査では、本丸西方の二ノ丸・三ノ丸間の堀・石垣が確認されたほか、照手遺跡では数寄屋住宅・庭園の例として著名であった「三秀園」の遺構が、部分的に残っていることが確認できました。さらに、福井駅構内では、近代のレンガ積みの転車台の跡も残っていました。

このように、昨年度の発掘調査でも貴重な発見が数多くありました。今回、その一部を速報としてご紹介いたしましたが、今後も調査報告書刊行に向けて遺物整理作業を続けていく中で、さらに新しい発見があると思います。その成果をみなさまにお伝えする日を楽しみにお待ちください。

最後になりましたが、これらの発掘調査にご協力いただきました関係機関・地域の方がたに、この場をお借りしましてお礼申し上げます。